

今、いのちがあなたを生きている

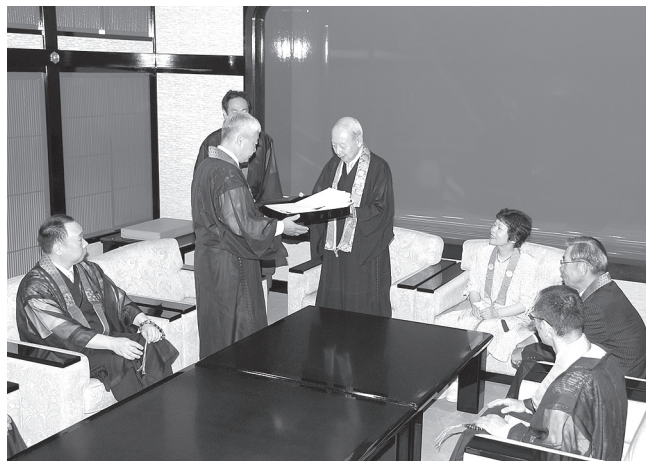
いのち
輝け！

目次

contents

教化委員会ニュース	3
御遠忌通信	7
シリーズ聞く 聖典講座「裁判員制度に問う」	10
ちょっといこか(番外編)	12

大阪教区御遠忌委員会(小松崇委員長)では、2013年に厳修される大阪教区の宗祖親鸞聖人750回御遠忌の円成を願って、大谷暢顯ご門首に「いのち輝け!」の言葉を揮毫いただき、直接拝受いたしました。



教区教化委員会ニュース

教区教化事業行事予定

●聖典講座

『教行信証』『化身土巻』に学ぶ

日時 12月8日(火) 午後6時

場所 教区教化センター会館

講師 藤場俊基氏

(金沢教区 常讃寺)

●秋安居

日時 1月12日(火)・13日(水)

午後5時～午後8時半

場所 難波別院同朋会館講堂

日時 1月14日(木)

午後1時～午後5時

場所 大和大谷別院会館講義室

講師 福島光哉氏

(講師・大谷大学名誉教授)

●聖典講座

善導の『観経疏』に学ぶ

日時 3月9日(火) 午後6時

場所 教区教化センター会館

講師 藤嶽明信氏

(大谷大学教授)

●全推進員の集い

日時 4月17日(土)

場所 難波別院御堂美術館大ホール

講師 未定

●第38回大阪教区同朋大会

日時 5月8日(土)

場所 難波別院

講師 蓑輪秀邦氏

(福井教区 仰明寺)

●ボランティア講座

日時 12月10日(木) 午後4時

場所 教区教化センター会館

講師 佐賀枝夏文氏

(大谷大学教授)

●青少年活動に学ぶ講座

これがボクらのメッセージ!!

～自主製作ショートフィルム&

トークライブ～

日時 2月2日(火) 午後6時

場所 難波別院同朋会館講堂

講師 真城義麿氏

(大谷中・高等学校長)

●得度準備講習会

日時 3月25日(木)～27日(土)

場所 教区教化センター会館他

●聖典講座

『教行信証』『化身土巻』に学ぶ

日時 4月13日(火) 午後6時

場所 教区教化センター会館

講師 藤場俊基氏

(金沢教区 常讃寺)

●聖典講座

善導の『観経疏』に学ぶ

日時 5月18日(火) 午後6時

場所 教区教化センター会館

講師 藤嶽明信氏

(大谷大学教授)

※その他、同朋唱和講習会・子ども同朋唱和講習会・帰敬式執行に関する講習会につきましては、各組・各

寺院を対象に随時受け付けておりますので、教務所までご連絡ください。

推進員養成講座参加者へインタビュー

第19組と第25組郡山ブロックでは、さる10月2日から4日まで、推進員養成講座後期教習として共に上山し、同朋会館にて研修を行いました。その時の参加者の皆様の声を紹介いたします。

西口雅彰さん

聞き手 今回、推進員養成講座に参加されていたか。

西口 新たな視点をいただき、視野が広がったような気がしました。今まではうわべでお内仏、仏さまと関わってきましたが、そういうことではないということを思いました。



とりあえず毎朝毎夕お内仏の前で手を合わせて、口に出してお念仏をしようと思いました。そういう身近なところから、始めていくと思います。

聞き手 帰敬式を受式いただきましたがいかがでしたか。

西口 新しい出発が始まるんだなあという気がしました。また、9月30日に還座式がありましたが、それか

らこの御影堂で宣誓式をするのが自分たちが初めてだというのを聞きました。あまり意識しなくてもいいのかとも思いますが、単純にうれしく思いました。

聞き手 本山での生活はいかがでしたか。

西口 住職さん方とも寝食を共にするので、夜とか時間があるときは、住職さんといういろいろ普段ではお話できないような深いところまで、個人的に話ができるので良かったです。住職さんやお寺を身近に感じることができ、普通の話をしてもいいところなんだということを改めて感じさせられる機会になりました。

(第19組妙善寺門徒)

竹村京子さん

聞き手 今回の講座で一番印象に

残ったことは何ですか。

竹村 帰敬式ですね。あの大きなお堂の中で、親鸞聖人の御前で厳かな雰囲気の中、執り行われたとき、体に電気が走ったような気がするほど感動しました。

聞き手 その感動から意識が変わったというようなことはありませんか。

竹村 それは帰敬式受式からだけではありませんが、仏弟子という言葉



を聞いて、自宅でもお内仏のお給仕をもっときちとしようという気持ちにはなりました。

た。それは講座を通してお内仏の意味が自分の中で少しはつきりしたからかもしれません。あと、失礼かもしれませんが、阿彌陀さんが近くなったような気もしました。

聞き手 推進員養成講座では座談会がありましたか。

竹村 私が世話話になっているお寺さんでも同朋の会がありまして、そこでは語り合いの時間があります。日常のことや正信偈のことについて話ができます。ただ、今回もそうですが、同じ意識で、同じ志をもつ

た仲間同士ということもあるので、よそでは言えないようなことでも言えるのかなあという気はします。もちろん反対意見なども出るのですが、それこそこの中だから受け止めてもらえるのかなあという安心感があります。自分自身を確認するという意味でも語り合いは大事だと思います。

聞き手 本山の後期教習では何か思うことはありませんか。

竹村 普段のお参りではなかなか上がることでない御影堂門や、諸殿拝観でいろいろなところを見せていただき、丁寧に補導さんから説明していただいたのでよかったです。またお内仏のお給仕の時間でも、補導さんが丁寧に丁寧にお内仏のお給仕について説明してくださってお内仏について知らなかったことやわからなかったことが確認できました。

(第19組正受寺門徒)

福井 勝さん

聞き手 今回、推進員養成講座を受講されていたか。

福井 自分の中で思っていた仏教の

イメージなどが整理できたかなと思います。真宗の教えというのが、わかったとはもちろん言えませんが、新しい視点をもちつたと言えることが2点ありました。1点目は今まで自分が真宗門徒ということについて、たまたま先祖が真宗門徒だから自分も真宗門徒で仏壇をまもっているという位の意識しか持っていないでした。しかし、講座の中で「家の宗教から個の自覚へ」という言葉



んがこういう視点もあるのかと気づかされました。2点目は、講座の中で先祖

祖についてお話がありました。私はこれまでご先祖にお参りをしているという意識でした。そういうことだけではないと聞きました。すぐにそのまま頷くことはできませんが、今後の課題として意識しながら聞法をしていきたいと思っています。

聞き手 同朋会館での生活はどうでしたか。

福井 今朝もうれしくなって妻に電話で話したのですが、帰敬式は非常

に感動しました。以前から住職さんに帰敬式を受けることについて誘っていたのですが、なんとなく気が進まずそのままにしてました。今回こういう機会を得て上し、帰敬式を受式したことは本当に良かったと思っています。これからもっとちゃんと歩まなければならいと思身が引き締まった感じがしました。

あと、最初に入館して結成式がありましたが、そのときにお勤めした正信偈が忘れられません。今回150人ほどが参加していると聞いてます



御影堂での宣誓式の様子

が、150人で正信偈をお勤めし、その中にいて圧倒されるようでした。唱和というのは凄いなと思いました。また、お朝事での御影堂のお勤めも生というかライブというか、そういう場で聞いて、一緒にお勤めできたことには本当に感動しました。

(第25組池之内徳蔵寺門徒)

村井義典さん

聞き手 本山での生活はいかがでしたか。

村井 お内仏のお給仕の時間がありました。聞くところによるとせなあかんと思いました。あと、諸殿拝観や、御影堂門に上がったのもよかったです。普段ではめったに上がることはできませんもんねえ。また、宣誓式のときは緊張しました。背筋が伸びる思いです。

聞き手 養成講座が終了し、推進員となるわけですが、今後お寺との関わりについてお考えはありますか。

村井 さつきも一緒に来ている同じお寺の者と話をしたんやけど、周りのご門徒は80代の方が目立つようになつてきました。そろそろ自分た

ちが中心になってお寺の諸行事に参加しなあかんかなと思いました。また今後、聞法会をお寺で開催できた



いいなと思っています。そういうことから若い人がお寺になじんで少しずつかわりを持つ

てくれるのではないかと思います。

聞き手 今回、推進員養成講座を通してどんなことを思われましたか。

村井 自分のわがままな部分は見直さなあかんと思いました。普段は自分勝手に何でもやってますからねえ(笑)。それと、お寺への見方も変わりました。自分はお寺が好きで京都のお寺など妻と一緒に観光していましたが、観光だけではないということを感じました。あとは、課題がたくさん残りましたね。ご先祖への考え方や、お墓についてなど、これまで自分が思っていたこととひょっとしたら正反對のことを講師が言うんで困りますわ(笑)。これからそういうことを考えるダメですね。そういう意味でもお寺に足を運ばなあかんと思いました。

(第25組徳源寺門徒)

ブットンくんデビュー！

教区教化委員会では、正信偈のおけいこを通して各寺院における子ども会の発足と充実を願いとし、「子ども同朋唱和講習会」を展開しています。その中で子どもたちとの距離を縮めるべく、着ぐるみの「ブットンくん」を当講習会講師6名で自作することとなりました。そのお一人であります北畠玄さんに一言いただきました。

子どもに受け入れられそうな愛くるしい動物のキャラクターで、阿弥陀さんのような……と考えていたある時、お逮夜参りでの『御文』拝読中、「仏恩報謝」という響きと共に「豚」となった阿弥陀さんが現れました。

子どもに受け入れられそうな愛くるしい動物のキャラクターを振り回して、時には深夜にまで作業は及びました。あえて苦労した点を挙げるとすると後片付けです。細かく削られた「粒子（カス）」は、畳や板の隙間で自己主張をくり返し、数日が経っても何処ともなく現れ、思わぬと

ところで再会をします。本当に家族や周りの方の理解と協力なしでは、完成は成しえませんでした。かくしてデザイン決定から約3ヶ月を要し、本年5月、晴れて講習会デビューを果たしました。製作案が出た昨年の12月から、まさしく「ブットン報謝」させていただいた1年間でした。

（第21組常通寺・北畠 玄さん）



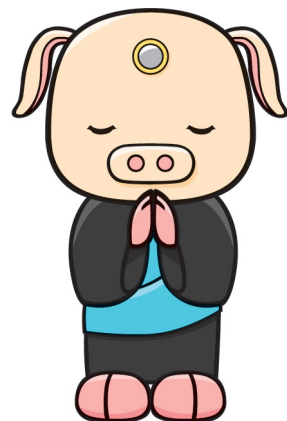
ブットンくんも本山報恩講に参拝



ブットンくん製作中の様子

ブットンくんプロフィール

- 年齢 「9歳」
- 好きな食べ物 「ごはん、おかし、何でも食べる」
- 苦手な食べ物 「とんかつ」
- 得意なこと 「誰とでもすぐ仲良くなれる、嗅覚が鋭い」
- 弱点 「鼻をつかまされると動けなくなる、大きな音がこわい」
- 性格 「マイペース、温厚、ちょっと臆病、意外にきれい好き、食いしん坊」



なおブットンくんは、本業の講習会だけでなく、難波別院の盆踊りをはじめ教区御遠忌テーマ発表セレモニーや本山報恩講参拝など、多忙なスケジュールをこなしています。



大阪教区

御遠忌通信

御遠忌テーマ発表セレモニーを開催

さる2009年10月27日、難波別院報恩講結願逮夜終了後に、大谷暢顯ご門首夫妻ご臨席のもと、「大阪教区の御遠忌テーマ発表セレモニー」が行われました。

当日は、ご門首夫妻をはじめ、小松教区御遠忌委員会委員長、内山教区門徒会会長、五辻教務所長の5名がテープカットを行い、その合図に合わせて発表されました。

境内白洲には、約500名の参拝者が見守る中、本号の表紙にも掲載いたしましたご門首揮毫の教区御遠忌テーマ「いのち輝け！ 今、いのちがあなたを生きている」の巨大タペストリー（縦12m、横5.4m）を掲揚しました。



小松委員長の挨拶では、『いのち輝け』という言葉によって、日々の生活で私たちは本当に輝きたいのちを生きているのかと厳しく問われている。また、今後このテーマのもと御遠忌への歩みを進め、教区一丸となって御遠忌が円成されることが願われる」と御遠忌へ向けた決意が語られました

最後に、教区内坊守がリードし、報恩講参詣者と共に御遠忌テーマソング「今、いのちが目覚めるとき」を歌い、セレモニーが締めくくられました。



教区テーマ発表 セレモニーにあたって

大阪教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌委員会が発足し、新たに組織された広報部会にとっては、「何をどこまでしたら良いのか？」手探りの1年でした。御遠忌の広報は、宗門内のみならず一般社会へも浄土真宗を発信するかけがいのない機会になるとの思いで検討を重ねてまいりました。

テーマ発表セレモニーは、御遠忌に向けて初めて対外的にアピールできる好機であり、今後の広報のありかたを考える試金石でもありました。教区テーマの文字をご門首にご染筆賜り、ご本人の合図で発表する演出は、ご門首とご門徒の皆さんとの親近感を深めたことでしょう。垂れ幕、のぼり、リーフレット、ポスターと一気に披露することで、テーマの言葉を印象付けることができ、何よりも集まってくださった皆様方が知人にセレモニーについて語る口コミは、宗門ならではの広報になっており、今後の可能性を感じさせてくれています。

(広報部会部長・楠樹章磨さん)

第6回教区御遠忌委員会総会報告

さる10月19日、第6回となる「大阪教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌委員会」総会が開催されました。

この委員会では、人事案件として御遠忌委員会委員と常任委員の委嘱についての確認(宗議会議員の御遠忌委員会委員委嘱など)、先般実施された教務所長巡回で教区御遠忌に對して出された意見・質問の報告、御遠忌テーマ発表セレモニーについての概要の説明と各専門部会におけ



る進捗状況の報告・確認が行われました。

以下に、協議・確認された内容を項目ごとにその要旨を掲載します。

教区御遠忌テーマ発表 セレモニーについて

広報部会を中心に協議が重ねられてきたセレモニーの概要が報告されました。

詳細については、別掲している教区御遠忌テーマ発表セレモニーの報告記事(7面)をご覧ください。

各専門部会進捗状況の 報告・確認について

●法要部会

各別院でのお待ち受け法要の執行体制について以下のとおり報告されました。

難波別院

期 日 2010年3月27日(土)

講 師 三木彰円氏

式支配 奥林 曉氏

松谷昌英氏

北畠顯諒氏

コーラス 教区坊守会(40名程度)

天満別院

期 日 2010年5月15日(土)

講 師 田代俊孝氏

(同朋大学大学院教授)

式支配 奥林 曉氏

山内雅教氏

コーラス 教区坊守会(25名程度)

八尾別院

期 日 2010年7月3日(土)

講 師 田代俊孝氏

(同朋大学大学院教授)

式支配 吉川知徳氏

松谷泰明氏

コーラス 16組仏教讃歌グループ

(40名程度)

茨木別院

期 日 2010年4月27日(火)

講 師 宮下晴輝氏

(大谷大学教授)

式支配 間 俊道氏

藤波 剛氏

コーラス みほとけの歌の会

(40名程度)

大和太谷別院

期 日 2010年6月27日(日)

講 師 宮下晴輝氏

(大谷大学教授)

式支配 高市勝則氏

日見 浄氏

コーラス 教区坊守会(20名程度)

僧籍を持つ御遠忌委員会委員に対して各別院でのお待ち受け法要出仕のご案内があり、いずれかの別院において出仕をいただくよう依頼があり、後日聞き取りアンケートを行うことが伝達されました。

●教化事業部会

お待ち受け教化事業として計画されている行事・イベントについて、進捗状況の報告がなされました。

特に、教区同朋大会では難波別院本堂での参拝者受け入れ人数の関係から、約800名ずつの受け入れを3回転行い、合計2,400名規模

で実施すること、青少年ライブの集いでは、難波別院境内全域を使って様々なイベントが企画されていますが、夕方に御堂会館大ホールで予定されていたトークライブイベントをシネマトークライブへ変更されたこと等が報告されました。

本山御遠忌讃仰期間に全国の教区に対して募集されていた「教区御遠忌讃仰事業」に、大阪教区として参画していくことが報告されました。

その企画は、晨朝又は讃仰勤行出仕を中心とした「子ども真宗本廟体験」と、教区として継続して取り組んでいる「人権」、「非戦平和」を中心に展開されるパネル展を二本柱として計画されています。

詳細は今後さらに検討されていくこととなりますが、教区教化委員会と連携しながら計画が進められていきます。

●団体参拝部会

御遠忌団体参拝第3次募集の結果が報告されました。

また、御遠忌団体参拝申込書について、各団体から概ね提出いただいていることが報告されました。

大阪教区団体参拝人数枠については、総会時現在の申し込み状況が伝達され、残席(513席)について確認を得て、今後新たな申し込みがなければ自然消滅することとなりました。

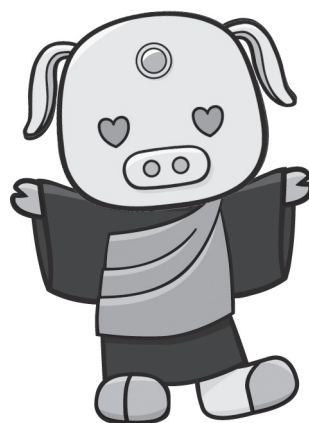
●広報部会

御遠忌お待ち受け広報の事業が報告されました。

具体的には、テーマポスター・御遠忌事業・日程入りポスター・教区御遠忌広報チラシ(リーフレット)・

親鸞講座広報ポスター・のぼり旗の作成がなされます。

そのほか、教区HPでの紹介、駅・電車の中吊広告等一般社会への発信の件、企業とのタイアップの計画が報告されています。



真宗大谷派(東本願寺)大阪教区宗祖親鸞聖人750回御遠忌

2010年お待ち受け諸行事・法要日程

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
27日 御遠忌お待ち受けオープニング お待ち受け法要 兼 組門徒会員研修大会 【坂東本】影印本贈呈 (難波別院)	27日 子どもの集い (難波別院)	10日 コーラス大会 (難波別院) 15日 親鸞講座 (難波別院) (立教開宗記念日) 大谷保育協会園児合同参拝 (難波別院)	17日 全推進員の集い (難波別院)	27日 お待ち受け法要 (茨木別院)	8日 教区同朋大会 (難波別院) 15日 お待ち受け法要 (天満別院) 22日 青少年ライブの集い (難波別院)	27日 お待ち受け法要 (大和太谷別院)	27日 お待ち受け法要 (難波別院) (報恩講結願速夜併修)	28日 お待ち受け法要 (難波別院) (報恩講結願日中併修)	31日 教区スポーツ大会 (会場未定)		

いのち輝け! 今、いのちがあなたを生きている

大阪教区ホームページ <http://icho.gr.jp> 過去通信 18期

お待ち受け日程入りポスター案 (現在作成中)

聖典講座「裁判員制度に問う」

／中京大学教授 平川宗信氏

今日は「裁判員制度に問う」という講題をいただきました。これは真宗に教えを聞く者としての生き方を問うということだろうと理解させていただきました。裁判員制度ができたことによって私たちに何を問われているのかということ課題として受け止めていただき、お話しさせていただきます。

まず裁判員制度が何のために作られたのかということですが、一言で言うと、市民参加による権力監視のために作られたと考えるべきだと思います。一般国民が国家による刑罰権の行使を監視してコントロールするためのものです。民主主義社会では、主権者は国民で、三権の行使を主権者である国民が監視しコントロールするというのが基本です。立法や行政に関しては、選挙や公聴会などの国民が参加できるシステムがあります。しかし、司法に関しては一般の国民が参加していく手立てが

ありませんでした。これは民主主義国家としては変則的で、民主主義国家を名のる他の外国では、なんらかの参加できるシステムがあるのが普通です。そこで、司法の分野でも主権者である国民が国家権力の発動を監視し、コントロールするためこの裁判員制度が作られたと考えるべきだと思います。

ですから、裁判員制度というのは、みんなで被告人を処罰するという制度では決してなく、被告人を処罰しようとしている国家を監視するというのが本来の目的です。ですから裁判員は何を裁くのかというと、極端に言えば、検察官を裁くのです。検察官が言っている主張が正しいかと

うか裁くのです。これが裁判員制度が設けられた根本的な意義です。

では、現在の裁判員制度はどうなのかというと、私は問題の多い制度だと思っています。1つは、裁判員制度の目的がはつきりしていないということ。裁判員法1条では、法律の趣旨が書かれています。市民による刑事司法のチェックや監視ということは一切記されていません。一般国民が裁判に参加することによる司法に対する国民理解の増進と信頼の向上ということが書かれているだけです。そのようなことから、裁判員制度についての報道を見ておりまして、これまでの裁判ではこういう問題があったが、裁判員制度が導入されてこういうことがよくなったということはあまり聞きません。そういう意味では、一体何のための裁判員制度なのかということが明確ではないと思われます。2つ目は、いきなりくじで選ばれた国民

が、裁判官と評議する中で裁判官がおかしいと思ったときに、意見を交換して裁判員の意見が通ることがあるのかということです。実際に裁判員になった方の意見を見てみても、「裁判官が難しい言葉を教えてくれた」とか、「裁判長が休憩のたびにかみ砕いて教えてくれた」というように裁判官に非常に頼っており、結局、裁判員が裁判官に説得されるか、あるいはリードされる形で裁判が進んでいくということになるのでないかと思われます。それから3つ目として、市民が被告人を裁くという報道になっている現状があります。ご承知のとおり、裁判員裁判の対象は殺人のような重大事件です。最近の裁判員裁判でも被害者の方が切々と心情を訴えているということがありました。そうすると、どうしても裁判員の人が被害者と感情的に一体化してきて検察官と一緒に被告人を裁いていくということになりやすいのです。そして4つ目は、裁判が裁判員裁判で拙速になる危険があるということです。裁判員をいつまでも裁判に拘束するわけにはいかないのです。基本的には3、4日で裁判を終わらせるということになってます。





それからもう一つ問題として、裁判員が量刑に関わるという問題性です。量刑では、どうすれば被告人が改善更生して社会に戻るかということ判断する必要があります。これを素人の裁判員にさせるということとは非常に無理があるというように感じています。おそらくほとんどの人は刑務所というところを見たこともないし、刑務所で1年生活するということがどういうことかわからない。そういう人が懲役1年や2年と議論するということにどういう意味

があるのかとも思います。私自身は、現段階の裁判員裁判については以上の問題があると考えてるわけです。

そこで私たち真宗者が裁判員を引き受けたとするならばどうするべきなのかということです。まず裁判員になった場合、何を基準にしてどう考えていくのかということが問題です。これは真宗者にとつてはあくまでも真宗ということが判断の依り処ということになります。しかし、裁判員制度のPRの文章などをみてみますと、一般の国民が何を基準に判断するのかというところでは国民の視点、国民の感覚、市民感覚というようなことが言われます。つまり、普通の人間の感覚で裁くということです。そういう国民の感覚、市民の感覚というのは、『歎異抄』によれば、「世のひとつねにいわく」ところの「悪人なお往生す、いかにいわんや善人をや」という感覚です。これは何かというと、善人意識です。国民の感覚で判断してくださいということとは、善人意識で裁いてくださいということとです。世間の常識、国民の感覚に従って判断したらいいと言われれば気楽になります。しかし、それは真宗から見るとおかしな話では

ないかと思うわけです。ただ、現実問題としては、加害者の気持ちはわからないけど、被害者の気持ちはよくわかるというのが、私たちの感覚です。これはやはり善人意識が根底にありますから、自分は犯罪を犯さない、自分が他人に害を与えるというイメージがわからない、それは自分を善人だと思っているからです。しかし、被害者の気持ちはわかる。それは自分が被害を受けるかもしれない、やらないけれどもやられるかもしれないという感覚です。まさに善人意識だろうと思います。そういう

中で真宗者は、自分自身は悪人で、しかるべき業縁があれば何をするかわからない存在であると。加害者といつてもこれは人ごとではないというのが、真宗者であろうと私は思います。『歎異抄』の有名な言葉に「わがころのよくて、ころさぬにはあらず。また害せじとおもうとも、百人千人をころすこともあるべし」とありますが、それが私たちの人間に対する自覚といえますか、人間観です。そういう視点をもって被告人を見てゆくことが大事であると思います。善人意識ではなく悪人の自覚に立つところに、真宗者として裁判員

制度に関わっていく視点が開かれてくるのではないかと思います。

真宗は、裁判員制度に対してこうするべきという答えを決して教えてはくれません。どこまでも私たちが真宗を依り処として問い続けていく道しかないのではないかと思います。

(文責／しやらりん編集部)

講師プロフィール

平川宗信(ひらかわむねのぶ)氏
1944年生まれ。現在、中京大学法学部・法学研究科教授、名古屋大学名誉教授。刑事法学専攻。

真宗者の立場から刑事法学の再構築に取り組むとともに、「報道被害者支援ネットワーク・東海」の代表なども務めている。著書に『刑事法の基礎』(有斐閣)、講義録に『憲法と真宗』(願生の会)などがある。

南御堂 盆踊り

Bon-dance

今回は趣を変えて「南御堂盆おどり」にお邪魔しました。ただ、「ちょっと」行こうにも一年に一回、2日間しかやっていないんですから「ちょっといこか」というわけにはいかないんですが..。



盆おどりの紹介はほかに任せまして、私たちはひたすら飲み食いに絞ってご案内したいと思います。

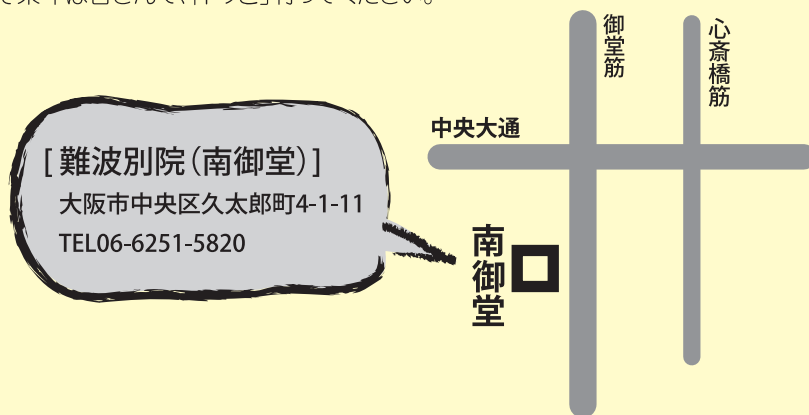
何といっても、暑い盛りは、ビールに限る。御堂さんの境内にはたくさんの屋台が出ています。本職の方々もありますが、別院職員の方もお店を出しています。だもんで「兄ちゃん、泡少なめにしてビールぎょうさん入れてや」といったことも言いやすい。本堂前あたりの屋台が狙い目です。ここでは、職員自らが茹で上げる「だだちゃ豆」がおいしい!

そのほかにも「おでん」「たこ焼き」「焼きそば」「串カツ」etc、etc。本当にお祭り気分たっぷりです。

とくに「串カツ」は薄めの肉(安物じゃないよ)にカリッと揚げた衣が付いていてまさに大阪の「串カツ」といった感じ。ソースはおばちゃんが掛けてくれるので、二度付けはしたくてもできません。

おつまみ以外にもジュースやかき氷なんかも楽しめます。

先着1000名様に屋台商品と交換できる「お楽しみ券」がもらえます!さらにうちわ、南御堂オリジナル手ぬぐいももらえます。どうぞ来年は皆さんで、「ドツ」と行ってください。



■南御堂周辺のお店紹介

番外編

編集後記

◆小雨の中、還座式に、大勢の参拝者に交じって参拝してきました。

た。◆坂東本に続き御真影が阿弥陀堂から御影堂に入堂、御還座され肅々と式次第が進むにつれて、参拝者はまさに一同一つの心になっていききました。◆次第に御影堂の中は熱気で溢れ、これこそが御同朋なのかと、また、このご縁をいただけた喜びで自分でも不思議なくらい感動しました。◆最近、感銘を受けた言葉があります。「小さい仕事をちゃんとできるようにになると大きな仕事もひとりでに片付いていく」(アメリカの社会評論家、デール・カーネギー)◆御遠忌にむけて様々な仕事がとりおこなわれています。たくさんの人たちが自分の持ち場に責任を持ち、ていねいに仕事をされているのです。還座式で私が感動することができたのも、そういう人たちの土台があったからこそものだと思います。(N)

発行日:2009年12月1日

発行所:真宗大谷派大阪教務所
大阪市中央区久太郎町4-1-11
TEL06-6251-4720

発行人:五辻信行

編集:
第4組 常樂寺・久世見証
第9組 淨圓寺・難波美千子
第10組 是三寺・北川浩三
第12組 清澤寺・澤田 見
第16組 即得寺・大戸俊彦
第17組 法観寺・廣瀬 俊
第25組 南林寺・藤林容子
第27組 願隨寺・平野圭晋
第27組 信證寺・吉内利彦

<http://www.icho.gr.jp/shararin/>